

Financial Report

第73期中間事業報告書 2003.4.1～2003.9.30



第73期中間事業報告書 目次

3	株主のみなさまへ
4	営業の概況及び業績の推移
6	部門別営業報告
9	活動リポート
10	特集
12	連結貸借対照表
13	連結損益計算書
14	連結キャッシュ・フロー計算書
15	株主様工場見学会のご案内
16	単独貸借対照表
17	単独損益計算書
18	中間配当金/株式事項
19	役員



PHOTO:フォレスター クロススポーツ 2.0i

株主のみなさまへ

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに、第73期中間事業報告をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当中間期の連結決算の業績につきましては、国内の自動車販売における新型レガシィが好調に推移したものの、利益面では米国における販売費の増加等が影響し、前年同期に比べ増収減益となり、単独決算につきましても増収減益となりました。

このような状況ではありますが、株主のみなさまに対する長期的安定配当の基本方針に基づき、当中間配当につきましては、引き続き1株につき4円50銭と決定させていただきました。

今後の経営環境につきましては、国内市場における自動車各社の新型車攻勢や米国市場における販売競争の激化、さらに急速な円高進行への懸念など引き続き不透明な状況が予想されます。

このような情勢のなかでこそ、中長期的な将来を見据えて、当社は昨年5月に策定した新中期経営計画『Fuji Dynamic Revolution-1』（FDR-1）のビジョンである『プレミアムブランドを持つグローバルプレーヤー』を目指してまいります。そして研究開発・生産・販売・アフターサービスなどあらゆる企業活動を通じて「量から質への転換」を図り、全世界のお客様に認知され得る特別な価値と信頼されるブランド力を持つ企業として、確固たる地位の確立に努めてまいります。

その中で、「FDR-1」2年目である今年は、従来から自動車事業で使用していたスバルのブランドマーク「六連星」を、企業全体のシンボルマークに改めました。これにより自動車を始めとするすべての商品に、お互いの高品質感、信頼感および社会環境への貢献などを共有させ、相乗効果を引き出すことにより、全部門においてプレミアムブランドに相応しい「総合ブランド戦略」の加速の引き金としてまいります。同時に、将来へ向けた戦略投資を可能とする収益基盤の構築を進めてまいります。

さらに新型レガシィにおけるシリーズの充実と強化を図るとともに、GMグループの一員として、開発・生産・販売等あらゆる領域においてアライアンス効果を最大限に活かし、グローバル経営の強化に取り組んでまいります。

当社はこれからも、「存在感と魅力ある企業」の実現に向け、常に新たな価値創造への挑戦を続けてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年12月



代表取締役社長

竹中 恭二

営業の概況及び業績の推移

〔営業の概況〕

当中間期は、自動車部門の国内での総販売台数は減少しましたが、5月に発売した新型レガシィが好調に推移したほか、海外では主要地区で堅調な販売を維持することができました。

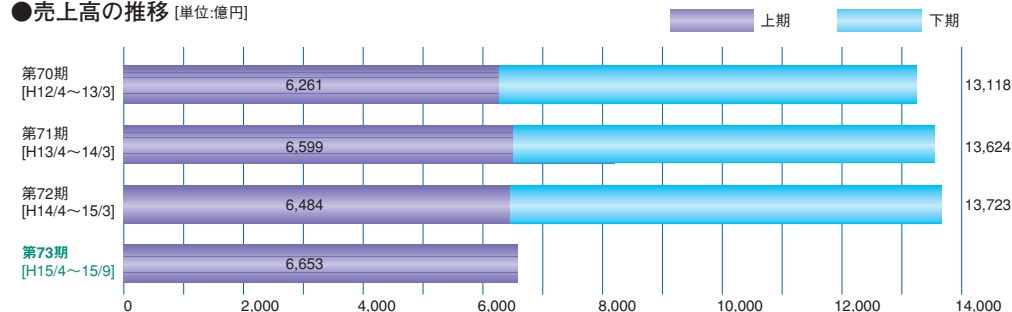
これらのなかで連結決算の売上高は、海外子会社の換算レート差が大きく影響したものの、今年1月に完全子会社となった米国の現地生産会社の受託生産が寄与し、6,653億円と前年同期に比べ169億円(2.6%)の増収となりました。利益面につきましては、新型レガシィ発売による利益への貢献や各種費用の低減に努めたものの、為替レート差および北米における販売費の増加等により、営業利益は183億円と前年同期に比べ186億円(50.4%)の減益となりました。しかし経常利益は、米国の現地生産会社の完全子会社化に関する連結調整勘定の償却や、米子会社の損益換算に係る為替差益等の増益要因があり、244億円と前年同期に比べ67億円(21.6%)の減少に留まりました。なお、当中間期は有価証券の売

却や前年同期に計上したバスおよび車両事業の撤退に伴う損失がなかったことなどの増益要因に加え、税負担の軽減もあり、当期純利益につきましては、194億円と前年同期に比べ26億円(16.2%)の増益となりました。

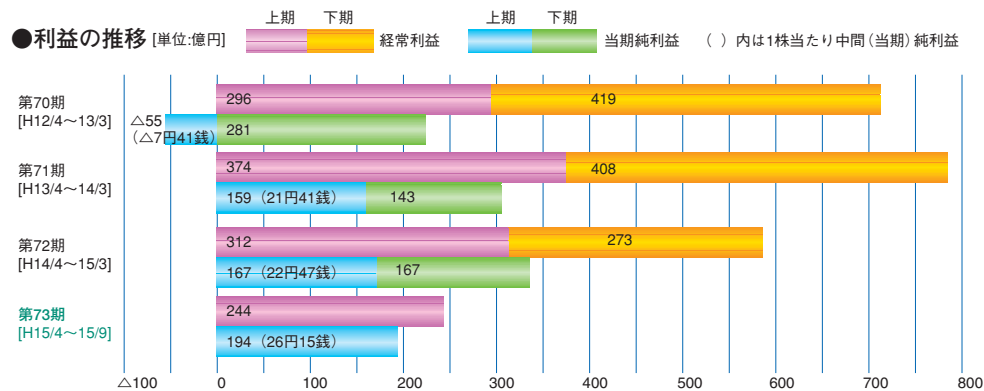
単独決算の売上高は、海外の売上(出荷)台数は減少しましたが、国内では、新型レガシィが好調に推移し、4,551億円と前年同期に比べ110億円(2.5%)の増収となりました。利益面につきましては、新型レガシィ発売による利益への貢献や各種費用の低減に努めたものの、為替レート差や車種構成差等により、営業利益は144億円と前年同期に比べ101億円(41.2%)減少しました。また経常利益につきましては、通貨オプション取引による増益要因があったものの、162億円と前年同期に比べ68億円(29.5%)の減益となりました。なお、当中間期は、投資有価証券評価損の減少や前年同期に計上した事業撤退損失がなかったことなどにより、当期利益につきましては、109億円と前年同期に比べ7億円(7.5%)の増益となりました。

〔連結の業績及び推移〕

●売上高の推移 [単位:億円]



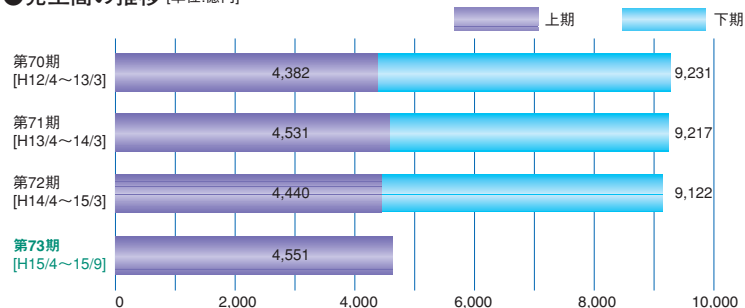
●利益の推移 [単位:億円]



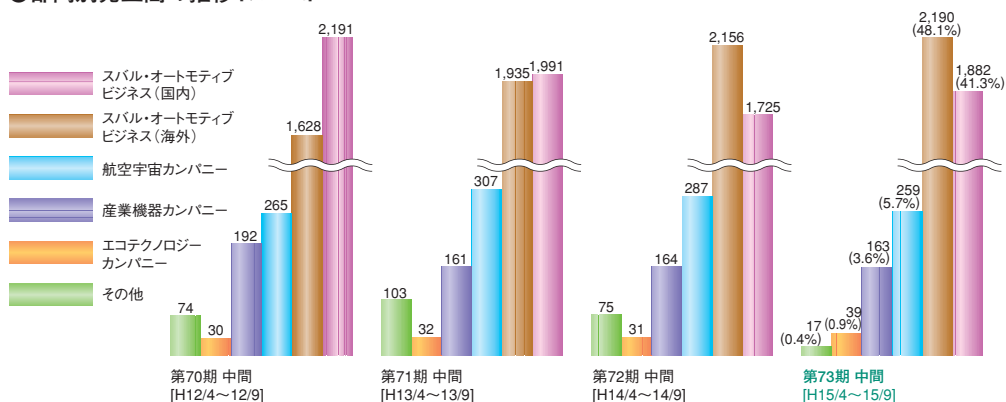
[注]億円未満切り捨て

[単独の業績及び推移]

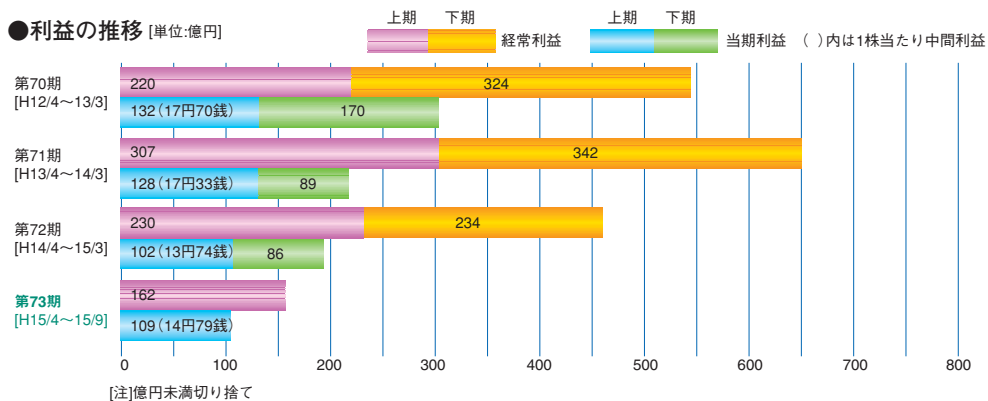
●売上高の推移 [単位:億円]



●部門別売上高の推移 [単位:億円] ()内の数字は、第73期中間の部門別売上高構成比です。



●利益の推移 [単位:億円]



部門別営業報告

[スバル・オートモーティブビジネス]

新型レガシィが好調なスタートを切り、国内登録車の売上台数が増加。

スバルの登録車につきましては、5月に発売した新型レガシィが発売後10日間で7千台を受注したほか、7月には10千台の販売を達成するなど、好調なスタートを切ることができました。これにより、レガシィは苦戦を強いられたインプレッサやフォレスターの落ち込みをカバーすることができ、登録車全体では前年同期に比べ増加しました。

一方、軽自動車は、プレオが他社の新型車攻勢の影響を受け、大幅に減少しました。サンバーにつきましては、昨秋のマイナーチェンジ以降、好調な販売を続けてきましたが、軽自動車全体では前年同期に比べ減少しました。

海外につきましては、北米市場の現地販売は、フォレスターの米国衝突安全試験における最高評価や、フォレスターターボ、インプレッサWRX STiバージョン

の導入などにより、好調に推移しました。しかし完成車輸出台数は、フォレスターがモデルチェンジをおこなった昨年には及ばず、前年同期を下回りました。

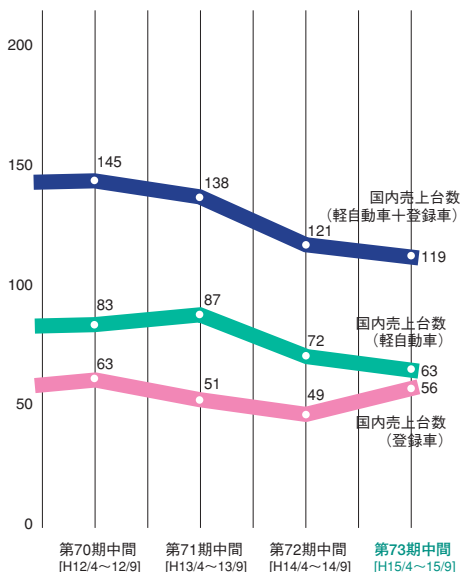
欧州においてはフォレスターおよびインプレッサが引き続き好調に推移したことに加え、新型レガシィの導入もあり、前年同期に比べ増加しました。一方、豪州では現地販売は引き続き好調に推移しましたが、完成車輸出台数は前年同期に届かず減少しました。

これらの結果、完成車輸出台数は、前年同期並となりましたが、CKD(海外生産用部品)につきましては、北米においてモデル最終年度となるレガシィが減少し、前年同期を下回りました。

以上の結果、国内、海外(CKDを含む)を合わせた売上(出荷)台数は262千台(前年同期比3.4%減)となりましたが、自動車部門全体の売上高は、軽自動車の台数減少と登録車の増加により4,072億円(前年同期比4.9%増)となりました。

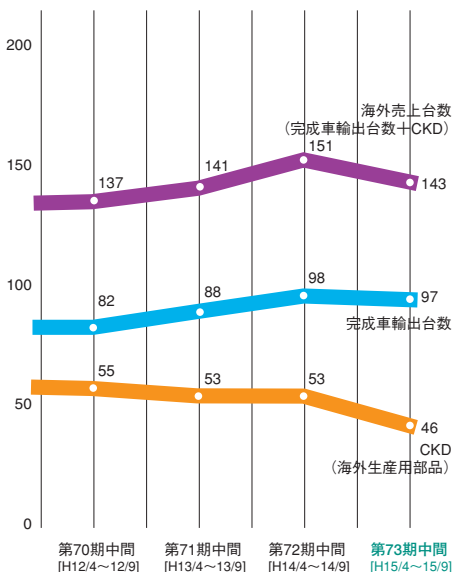
●売上台数の推移(国内)

[単位:千台]



●売上台数の推移(海外)

[単位:千台]





スバル レガシィ 2003-2004 日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞

この5月23日に発表したスバルレガシィが、2003-2004日本カー・オブ・ザ・イヤー（日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会主催）を受賞しました。

SUBARUの受賞は同賞24回の歴史の中で初めてです。今回は、独自のメカニズムを持つSUBARUブランドの個性を、環境対応など新しい時代の要求に応えて磨き続けた「レガシィ」に対し、高い総合バランスを持つ、世界に誇れるクルマとしての評価をいただきました。

今後もお客さまに感動を与えるクルマづくりを続けてまいります。



PHOTO:レガシィ ツーリングワゴン 3.0R



PHOTO:レガシィ B4 3.0R



PHOTO:スバル アウトバック 3.0R

NEW MODEL

新開発SUBARU BOXER6搭載 レガシィ ツーリングワゴン・B4「3.0R」

スポーティで洗練されたスタイリングと、高い走行性能が好評を博しているレガシィに「3.0R」が追加発売されました。「3.0R」は新開発の3.0ℓ水平対向6気筒エンジンを搭載し、滑らかでスムーズな乗り味を高めながら、優れた走行性能と環境性能を両立しています。また、エクステリア、インテリア、足回りには専用の仕様を施し、独自の存在感と走りを表現しています。

NEW MODEL

既存車にはない新しいカテゴリーの提案 スバル アウトバック

本年10月「レガシィ ランカスター」を海外と統一の名称「アウトバック」に改め、新たに発表しました。スバルは、ラフロードでの走破性とオンロードにおける優れた走行性能を両立した「クロスオーバー」というコンセプトを世界に先駆けて提案してきました。「アウトバック」は、そのクロスオーバーの魅力を、走り・スタイル共に大幅に進化させたモデルです。

部門別営業報告

〔航空宇宙カンパニー〕

ボーイング社向け製品が減少

防衛庁向け製品は、昨年度納入を開始した新初等練習機「T-7」の機数増加がありましたが、支援戦闘機「F-2」の機数減少や中等練習機「T-4」が昨年度に納入完了したこともあり、前年同期を下回りました。また、民需も米国同時多発テロ以降、引き続きボーイング社向け製品が減少するとともに、高速飛行実証機が昨年度に納入完了したこともあり、前年同期を下回りました。その結果、売上高は259億円（前年同期比9.9%減）となりました。

〔産業機器カンパニー〕

国内の売上が好調に推移

国内は発電機搭載用エンジンの増加や小型ポンプ搭載用等の農林漁業向けエンジンが増加したことにより、前年同期を上回りました。海外では米国向けレジャービークル用新型エンジンの拡販等により増加したものの、CKD（海外生産用部品）が大幅に減少し、売上高は163億円（前年同期比0.5%減）となりました。

〔エコテクノロジーカンパニー〕

フジマイティの売上が増加

塵芥収集車フジマイティが、首都圏でのディーゼル車排出ガス規制による買い替え特需により増加するとともに、風力発電システムも加わり、売上高は39億円（前年同期比23.7%増）となりました。

〔その他〕

ハウス事業部で売上減少

ハウス事業につきましては、コンテナハウスが減少したほか、車両事業およびバス事業が平成15年3月末をもって新車生産を終了したことにより、売上高は17億円となりました。



本年3月に宇宙航空研究開発機構（JAXA）に納入し、8月に飛行試験に成功した「成層圏滞空試験機」。
写真提供：宇宙航空研究開発機構（JAXA）



環境に配慮した高出力で低燃費な空冷4サイクル傾斜形単気筒OHC式ガソリンエンジン「EX17」



国内トップシェアを誇る塵芥収集車「フジマイティ」



7月25日に完成引渡しが完了した群馬製作所第一製造部事務所棟（CAB型二階建事務所タイプ）

日本初の小型航空機による 完全自動離着陸飛行実験に成功

航空宇宙カンパニーは無人機や小型航空機に適用可能な自動離着陸技術実証のため、小型軽量な自動離着陸システムを開発し、社有機に装着して、わが国初の小型航空機による完全自動離着陸飛行実験に成功しました。今回のシステムは当社が得意とする無人機技術をベースに、有人航空機へも搭載可能なシステムとして開発したもので、GPSを航法に使用し、大掛かりな既存航法援助施設を使わず、いかなる飛行場へも対応可能としたことが特徴です。今後も自動飛行技術をさらに発展させ、無人機および小型航空機への応用を目指します。



PHOTO:自動離着陸実験機

群馬製作所矢島工場に 「スバルビジターセンター」を開設

当社の創立50周年を記念する事業の一つとして、群馬製作所矢島工場（群馬県太田市）に「スバルビジターセンター」を開設しました。同センターは工場見学などで矢島工場に来訪されるお客様に、スバルのブランドアイデンティティをわかりやすく説明するとともに、スバルの歴史や個性的な技術を紹介するための施設です。自動車工場は見学希望者もたいへん多いことから、今まで以上にこうしたご要望にも積極的に応え、社会の一員としての役割に役立てていきたいと考えております。



PHOTO:スバルビジターセンター

都内超高層ビルにゴミ分別搬送システム 「ヒュー・ストン」を納入

東京都内の六本木ヒルズ（54階）、品川三菱ビル（31階）、日本テレビ新社屋（32階）等の超高層ビルにヒュー・ストン（ゴミ分別搬送システム）を納入。重力を利用した垂直搬送のため省エネルギーであり、仕分装置で分別貯留するため、リサイクルにも貢献しております。

PHOTO:日本テレビ新社屋（左上）・六本木ヒルズ（右上）
品川三菱ビル（左下）・「ヒュー・ストン」イメージ図（右下）



グローバルモーターショー戦略の中で 第37回東京モーターショー2003に出展

さる10月22日～11月5日、千葉県・幕張メッセにおいて「第37回東京モーターショー2003」が行われました。

当社では、本年度より「グローバルモーターショー戦略」を掲げております。これは世界の5大モーターショーを、当社のクルマづくりの方向性をアピールする絶好の場として捉え、世界統一のブランド戦略を推し進めていくものです。

今回、東京モーターショーでは「Think. Feel. Drive.」をテーマに、コアテクノロジーである「Symmetrical AWD」はもちろん、次世代のパワーソースなど、SUBARUが提案する先進技術を展示。さらに、アンドレアス ザパティナス率いるアドバンスド デザインチームによる2台のコンセプトカーにより、次世代のデザインコンセプトも提案しました。

新ブランドメッセージを設定

今回の東京モーターショーで、SUBARUのクルマづくりの方向性を示すものとして、世界統一メッセージを発信しました。当社ではこのメッセージを、お客様への宣言・約束として捉え、個性的なプレミアムブランドを目指し続けます。



Think.

考え抜いたモノづくり
「知性」を感じる商品

Feel.

変化の先取り
「感性」に響く商品

Drive.

自ら動く
「価値を創造する」商品

The 37th TOKYO MOTOR SHOW 2003 SUBARU CONCEPT CARS



B9 SCRAMBLER

アドバンスドデザイン部門の成果としてオールラウンドのオープンエアモータリングを提案しました。メカニズムにおいても、当社とNECの合併会社「NECラミリオンエナジー(株)」において開発を進めてきました高性能小型蓄電池「ラミリオン・バッテリー」を活用したSSHEV(シーケンシャル・シリーズ方式ハイブリッド)を採用。時速80kmまではモーターで走行し、時速80km以上ではエンジンに切り替わる画期的なユニットです。



SUBARU R2

(参考出品車)

この12月8日に発表した新型軽自動車、参考出品車として先行展示しました。

乗る人のライフスタイルを豊かに感じさせてくれるそのスタイリングと、日常の様々な場面で、気軽に付き合える良質なパートナーとしてSUBARUが提案する、個性的で、クラスレスな高い存在感をもったミニカーです。

スポーティ&エレガンス

フロントからルーフまで滑らかなラインの「ワンモーションフォルム」、飛行機メーカーのDNAを具現化したフロントグリル。個性的なデザインの中にミニカーの粋を超えた上質感を表現しました。

社会ニーズに対応 環境&安全性能

新開発のエンジンにより驚きの燃費を実現。さらに車体の合理化による省資源化も達成しました。安全性では実際の事故状態に対応するべくコンパティビリティや歩行者保護も考慮しました。

しっかりした 走りの良さ

4気筒エンジン+ i-CVT、4輪独立懸架サスペンションといったSUBARU独自のメカニズムが、街中でのキビキビした走りはもちろん、遠出や高速道路での安定した走行性能を発揮します。



R1e

同じく当社アドバンスドデザイン部門の提案するデザインコンセプトに包まれたこのクルマは、様々な問題を抱える都市生活に新しい提案をする電気自動車です。

他の出品車と同じく、飛行機をモチーフにしたフロントデザイン、都市でのパーソナルユースを重視した「2+2パッケージ」。B9と同じ「ラミリオン・バッテリー」をわずか3時間充電するだけで、1週間程度使用できる完全なゼロエミッションビークルです。今後需要の高まる車内情報端末（テレマティックス）も採用しています。

連結貸借対照表

単位：百万円

科目	第73期中間 平成15年9月30日現在	第72期 平成15年3月31日現在
資産の部		
流動資産	675,994	670,149
現金及び預金	67,470	69,781
受取手形及び売掛金	120,109	128,523
有価証券	107,499	94,636
たな卸資産	201,336	198,656
短期貸付金	90,492	98,177
繰延税金資産	36,728	40,340
その他	53,058	40,522
貸倒引当金	△ 698	△ 486
固定資産	691,520	673,923
(有形固定資産)	(510,601)	(496,542)
建物及び構築物	118,888	115,193
機械装置及び運搬具	173,373	171,352
土地	162,713	157,895
建設仮勘定	21,479	14,441
その他	34,148	37,661
(無形固定資産)	(39,500)	(38,173)
(投資その他の資産)	(141,419)	(139,208)
投資有価証券	48,972	46,486
長期貸付金	4,693	4,829
繰延税金資産	31,801	33,466
その他	59,685	58,148
貸倒引当金	△ 3,732	△ 3,721
資産合計	1,367,514	1,344,072

科目	第73期中間 平成15年9月30日現在	第72期 平成15年3月31日現在
負債の部		
流動負債	601,651	619,820
支払手形及び買掛金	187,766	213,748
短期借入金	222,834	201,970
コマーシャルペーパー	11,000	9,000
一年内償還社債	10,000	10,000
一年内償還転換社債	—	18,774
未払法人税等	9,498	10,047
未払費用	77,679	73,829
賞与引当金	17,140	16,974
製品保証引当金	26,968	24,374
その他	38,766	41,104
固定負債	312,461	309,638
社債	90,800	80,800
長期借入金	61,974	68,562
土地再評価に係る繰延税金負債	439	442
退職給付引当金	63,802	61,170
役員退職慰労引当金	1,095	1,335
連結調整勘定	45,579	48,940
その他	48,772	48,389
負債合計	914,112	929,458
少数株主持分		
少数株主持分	3,322	3,362
資本の部		
資本金	153,795	144,455
資本剰余金	160,071	150,766
利益剰余金	149,115	133,186
土地再評価差額金	391	389
その他有価証券評価差額金	7,172	3,446
為替換算調整勘定	△17,683	△18,237
自己株式	△ 2,781	△ 2,753
資本合計	450,080	411,252
負債、少数株主持分及び資本合計	1,367,514	1,344,072

連結損益計算書

単位：百万円

科目	第73期中間 自 平成15年4月 1日 至 平成15年9月30日	第72期中間 自 平成14年4月 1日 至 平成14年9月30日
経常損益の部		
営業損益の部		
売上高	665,389	648,474
売上原価	493,746	467,607
販売費及び一般管理費	153,335	143,921
営業利益	18,308	36,946
営業外損益の部		
営業外収益	10,375	2,131
受取利息及び配当金	1,187	1,075
連結調整勘定償却額	3,360	—
デリバティブ評価益	1,807	—
その他	4,021	1,056
営業外費用	4,207	7,846
支払利息	1,290	1,569
持分法による投資損失	—	19
その他	2,917	6,258
経常利益	24,476	31,231
特別損益の部		
特別利益	6,276	188
固定資産売却益	658	4
投資有価証券売却益	4,576	—
前期損益修正益	887	—
その他	155	184
特別損失	4,133	5,826
固定資産売却・除却損	3,721	2,132
投資有価証券売却損	—	981
投資有価証券評価損	58	749
事業撤退損失	—	1,882
その他	354	82
税金等調整前中間(当期)純利益	26,619	25,593
法人税、住民税及び事業税	4,027	11,808
過年度未払法人税等戻入額	—	△ 2,973
法人税等調整額	3,230	134
少数株主損失	(加算) 42	(加算) 81
中間(当期)純利益	19,404	16,705

連結キャッシュ・フロー計算書

●キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は1,584億円と前期に比べ115億円減少しました。

当中間期の前年同期に対する各キャッシュ・フローの増減状況と要因は次のとおりです。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当中間期の営業活動により得られた資金は、当期純利益、減価償却費を主たる源泉としつつ、売上債権の減少・仕入債務の減少が前年同期比152億円減少したこと等から259億円と前年同期比276億円の資金の減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当中間期の投資活動により支出した資金は、有価証券の売却が前年同期比235億円少なかったこと等により、573億円と前年同期比124億円の資金の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当中間期の財務活動は、社債の発行が前年同期比100億円多く、同じく償還が98億円少なかったこと等により、199億円の調達と前年同期比292億円の資金の増加となりました。

●連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

単位：百万円

科目	第73期中間	第72期中間
	自 平成15年4月 1日 至 平成15年9月30日	自 平成14年4月 1日 至 平成14年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	25,930	53,623
投資活動によるキャッシュ・フロー	△57,384	△44,924
財務活動によるキャッシュ・フロー	19,918	△9,361
現金及び現金同等物に係る換算差額	17	△3,155
現金及び現金同等物の増加額（△減少額）	△11,519	△3,817
現金及び現金同等物期首残高	169,944	133,708
現金及び現金同等物中間期末（期末）残高	158,425	129,891

株主様工場見学会のご案内

今回、株主様向けの工場見学会を初めて開催いたしますので、ご案内いたします。
ご見学いただく群馬製作所矢島工場（群馬県太田市）は富士重工業の自動車事業スバル・オートモーティブビジネスの主力生産拠点です。また、当社の同工場に新たに開設した「スバル ビジターセンター」もあわせてご見学いただけます。



PHOTO:スバルビジターセンター内「展示ホール」(左)
群馬製作所矢島工場(右)

●ご見学日時

平成16年3月6日(土) 11:00から15:00まで

●ご見学場所

群馬製作所矢島工場およびスバルビジターセンター
所在地:群馬県太田市庄屋町1-1

●生産品目

レガシィ、インプレッサ、フォレスター

●ご集合場所

東武伊勢崎線太田駅(浅草から特急りょうもう号で約1時間20分)

- ① 当日は、東武伊勢崎線太田駅より送迎バスをご用意いたします。
- ② お車で越しの株主様は矢島工場に直接おいでください。
- ③ 当日のご集合場所までの往復交通費は、株主様のご負担とさせていただきますのでご了承ください。

●ご見学人数

80名様とさせていただきます。

- ① ご希望者多数の場合は、誠に勝手ながら抽選とさせていただきますので、ご了承ください。
- ② ご見学いただく株主様には、後日詳細をご連絡させていただきます。

●お申込方法

官製はがきに、株主名簿にご登録の①郵便番号
②ご住所③お名前④電話番号&携帯電話番号
⑤交通手段(電車・車・その他)をご記入の上、以下の宛先までお送りください。平成16年1月16日(金)の到着分をもって締め切らせていただきます。なお、ご参加は株主様ご本人とさせていただきます。

●宛先

〒160-8316 東京都新宿区西新宿1-7-2
富士重工業株式会社「株主様ご見学会」係
TEL 03-3347-2012
ご不明な点は上記へお問い合わせください。

単独貸借対照表

単位：百万円

科目	第73期中間 平成15年9月30日現在	第72期 平成15年3月31日現在
資産の部		
流動資産	413,976	395,113
現金及び預金	37,168	30,832
受取手形	2,983	3,781
売掛金	89,996	113,598
有価証券	97,393	80,314
製品	35,637	26,876
原材料	5,289	5,605
仕掛品	50,779	51,591
貯蔵品	1,648	1,568
前渡金	12,020	5,272
前払費用	2,811	1,585
繰延税金資産	17,864	16,162
未収入金	17,656	20,020
短期貸付金	38,026	35,290
その他	5,007	2,676
貸倒引当金	△ 307	△ 64
固定資産	531,072	514,237
(有形固定資産)	(246,784)	(243,604)
建物	52,152	49,997
構築物	6,501	6,534
機械装置	87,788	84,486
航空機	135	165
車両運搬具	1,289	1,147
工具器具備品	10,883	11,290
土地	79,076	79,617
建設仮勘定	8,955	10,364
(無形固定資産)	(17,078)	(15,881)
工業所有権	13	15
ソフトウェア	9,826	10,758
その他	7,238	5,108
(投資その他の資産)	(267,209)	(254,751)
投資有価証券	38,255	33,679
関係会社株式	137,226	134,711
出資金	33	56
関係会社出資金	453	432
長期貸付金	52,990	44,865
長期前払費用	2,879	2,959
繰延税金資産	35,012	37,800
その他	8,179	8,107
貸倒引当金	△ 7,820	△ 7,861
資産合計	945,049	909,351

科目	第73期中間 平成15年9月30日現在	第72期 平成15年3月31日現在
負債の部		
流動負債	298,349	305,091
支払手形	4,802	4,697
買掛金	164,339	157,348
短期借入金	25,040	25,040
一年内返済長期借入金	145	1,281
一年内償還社債	10,000	10,000
一年内償還転換社債	—	18,774
未払金	15,376	18,497
未払費用	41,984	40,616
未払法人税等	7,295	5,457
前受金	3,573	666
預り金	969	984
前受収益	129	138
賞与引当金	11,499	11,717
製品保証引当金	9,232	7,390
設備関係支払手形	2,373	2,260
その他	1,588	219
固定負債	149,466	136,642
社債	90,000	80,000
長期借入金	10,807	10,820
長期未払金	2,206	2,645
預り保証金	2,455	1,708
退職給付引当金	43,777	41,182
役員退職慰労引当金	94	239
債務保証損失引当金	125	47
負債合計	447,816	441,734
資本の部		
資本金	153,795	144,454
資本剰余金	160,070	150,766
資本準備金	160,070	150,766
利益剰余金	179,370	171,836
利益準備金	7,901	7,901
配当準備積立金	6,000	6,000
退職手当積立金	1,000	1,000
別途積立金	78,335	78,335
中間(当期)未処分利益	86,134	78,600
(うち中間(当期)純利益)	(10,985)	(18,880)
その他有価証券評価差額金	6,744	3,284
自己株式	△ 2,747	△ 2,723
資本合計	497,233	467,617
負債及び資本合計	945,049	909,351

[注] 百万円未満切り捨て

単独損益計算書

単位：百万円

科目	第73期中間 自 平成15年4月 1日 至 平成15年9月30日	第72期中間 自 平成14年4月 1日 至 平成14年9月30日
経常損益の部		
営業損益の部		
営業収益		
売上高	455,163	444,093
営業費用	440,690	419,462
売上原価	362,904	341,611
販売費及び一般管理費	77,786	77,850
営業利益	14,472	24,631
営業外損益の部		
営業外収益	5,131	3,298
受取利息及び配当金	1,227	1,327
デリバティブ評価益	1,726	—
その他の営業外収益	2,176	1,971
営業外費用	3,376	4,901
支払利息	831	1,042
その他の営業外費用	2,545	3,858
経常利益	16,227	23,028
特別損益の部		
特別利益	4,979	8,080
固定資産売却益	21	1
投資有価証券売却益	4,035	—
貸倒引当金戻入額	35	612
債務保証損失引当金戻入額	—	7,467
前期損益修正益	886	—
特別損失	3,685	18,426
POINT 2 固定資産売却・除却損	3,550	1,850
投資有価証券売却損	—	963
投資有価証券評価損	56	13,730
債務保証損失引当金繰入額	78	—
事業撤退損失	—	1,882
税引前中間(当期)純利益	17,522	12,682
法人税、住民税及び事業税	7,804	9,237
過年度未払法人税等戻入額	—	△ 2,973
法人税等調整額	△ 1,267	△ 3,803
中間(当期)利益	10,985	10,221
前期繰越利益	75,148	63,061
中間(当期)末処分利益	86,134	73,282

[注] 百万円未満切り捨て

POINT 1 社債の発行

社債償還資金や関係会社に対する投融資および設備資金に充当するため、普通社債20,000百万円を発行しました。なお、当中間期は18,644百万円の転換社債が転換され、資本金および資本準備金に組み入れられました。

POINT 2 特別損益

当中間期は、株価の変動リスク回避のため、保有する有価証券を売却し、その売却益として4,035百万円を計上しています。また、軽自動車の生産ライン統合などにより、固定資産売却・除却損3,550百万円を計上しています。

POINT 3 有利子負債

財務体質の改善を図るため、有利子負債(社債、借入金等)を削減しました。当中間期末の有利子負債は135,992百万円となり、前期末に比べ、9,922百万円減少しました。

【貸借対照表および損益計算書に関する注記】

1. 有形固定資産減価償却累計額 …… 425,811百万円
2. 保証債務 …… 155,294百万円

中間配当金

平成15年11月17日開催の取締役会において、当社定款第35条の規定にもとづき、平成15年9月30日最終の株主名簿等に記載された株主に対し、下記のとおり中間配当の実施を決議しました。

1. 中間配当金1株につき 4円50銭
 2. 支払請求権の効力発生日
 および支払開始日 平成15年12月9日

株式事項

平成15年9月30日現在

●株式の総数

発行する株式の総数	1,500,000,000株
発行済株式の総数	782,865,873株
[注]当期中の増加	36,344,992株
転換社債の転換による新株式の発行	36,344,992株

●株主数

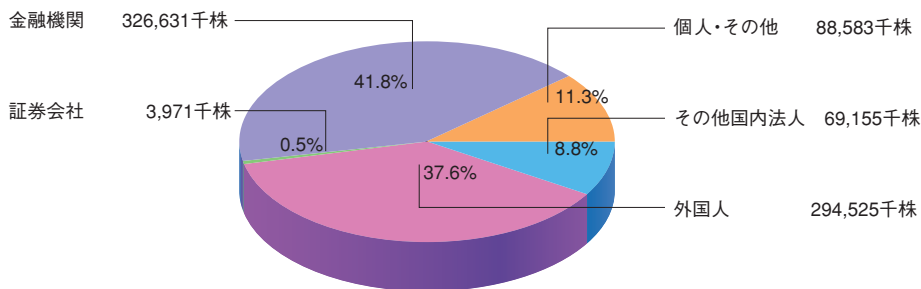
44,316名

●大株主

株主名	株式数(千株)
ゼネラル モーターズ オブ カナダ リミテッド	157,262
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口	52,184
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	44,731
ザチュースマンハッタンバンクエヌエイロンドン	39,051
株式会社みずほコーポレート銀行	31,736
スズキ株式会社	21,081
日本生命保険相互会社	17,762
モルガン信託銀行株式会社非課税口	13,969
UFJ信託銀行株式会社信託勘定A口	13,599
株式会社損害保険ジャパン	11,649

●株式の分布状況

合計782,865千株



役員

平成15年10月1日現在

代表取締役社長	竹中恭二	執行役員	岩崎雅利
代表取締役副社長	和田英生	執行役員	寺尾俊文
取締役兼専務執行役員	鈴木 浩	執行役員	石神邦男
取締役兼専務執行役員	荒澤紘一	執行役員	工藤一郎
取締役兼専務執行役員	土屋孝夫	執行役員	デイビッド J. マリック
取締役兼専務執行役員	中坪博之	執行役員	杉本 清
取締役兼専務執行役員	高木俊輔	執行役員	星 恒憲
★取締役	フレデリック A. ヘンダーソン	執行役員	森 郁夫
専務執行役員	中原國隆	執行役員	石原 卓
専務執行役員	伊能喜義	執行役員	近藤 潤
専務執行役員	小松 熙	執行役員	岡崎鎮弘
常務執行役員	塚原 穰	執行役員	湯浅誠治
常務執行役員	和仁喜三郎	執行役員	桜井 智
常務執行役員	及川博之	執行役員	石藤秀樹
常務執行役員	石丸雍二	執行役員	望月孝司
常務執行役員	奥原一成	執行役員	デレック C. レック
常務執行役員	松尾則久	常勤監査役	吉橋隆美
常務執行役員	田村 稔	常勤監査役	街風武雄
常務執行役員	鷲頭正一	常勤監査役	永野正義
		☆監査役	野村邦武

[注1] ★印は商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。

[注2] ☆印は商法特例法第18条第1項に定める社外監査役であります。

[株主メモ]

決算期日 3月31日
株主確定日
定時株主総会 } 3月31日
利益配当金 }
中間配当金 9月30日
その他の基準日 上記のほか、取締役会の決議により
あらかじめ公告する一定の日
6月中
定時株主総会
名義書換代理人
東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所
東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
[郵便物送付先・電話お問合せ先]
〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 03-5213-5213[代表]
同取次所
みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

[会社の概要]

社名 富士重工業株式会社
英文社名 FUJII HEAVY INDUSTRIES LTD.
創立 昭和28年7月15日
資本金 1,537億9,527万円
従業員数 14,362名
主要製品 普通自動車、小型自動車、軽自動車、航空機、
汎用エンジン、環境車両
本社 〒160-8316
東京都新宿区西新宿一丁目7番2号
電話 03-3347-各部署ダイヤル直通
番号案内 03-3347-2111

表紙の写真はスバル アウトバック 3.0R



PHOTO:インプレッサ スポーツワゴン 15i-S

富士重工業株式会社

〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号
電話03-3347-2111

(投資家のみなさまへ) <http://www.fhi.co.jp/fina/index.html>